609

喜子川（きしかわ）遺跡

（大島郡笠利町土盛字喜子川）

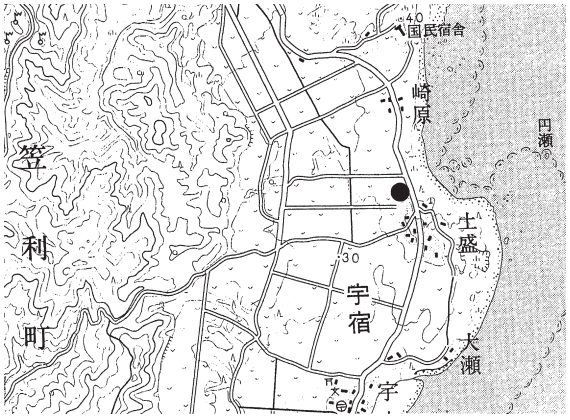
位置と環境

笠利半島の東海岸は，砂丘上のほとんどが遺跡と言っても過言ではない。代表的な遺跡には，土器標識名にもなり，宇宿上層式・下層式土器で知られる国指定遺跡宇宿貝塚や乳房状尖底土器・爪形文土器が出土した宇宿高又遺跡，洞窟遺跡のイヤンヤ洞窟遺跡などがある。概ね，海岸よりの新砂丘上には弥生時代からグスク時代に至る遺跡が多く，山よりにある古砂丘上は縄文時代の遺跡が多い。

調査の経緯

喜子川遺跡は1982年（昭和57年）に畑地総合開発事業で遺跡の断面が露出し，発見された。砂丘に遺物包含層があり，爪形文土器が発見された。爪形文土器の出土する下層からアカホヤ火山灰層も確認されている。

高梨学術奨励基金の援助で笠利町歴史民俗資料館と青山学院大学考古学研究室，沖縄国際大学で調査チームを結成して1987年夏に第１次調査を行った。第２次調査は1988年夏に行う。第３次調査は1989年夏に行う。第４次調査は1990年３月に行う。1990年から1992年まで計７回行っている。調査後遺跡は笠利町が公有化し，保存されている。



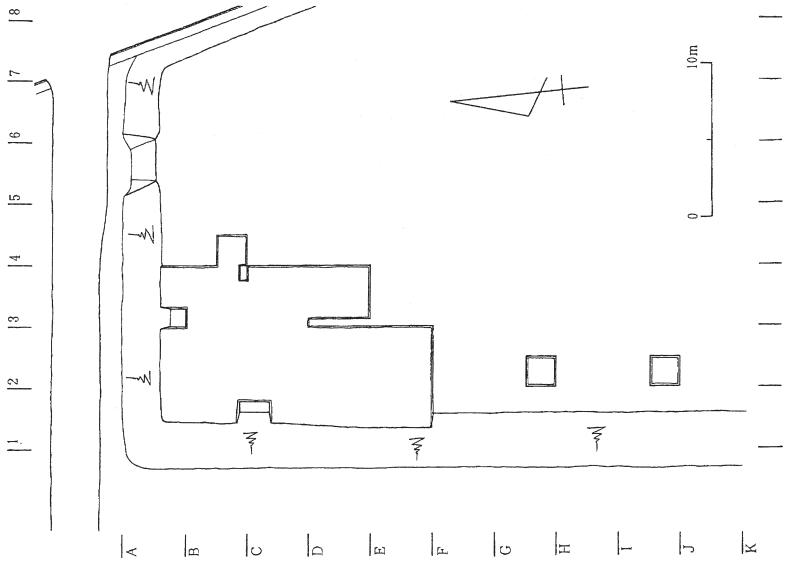
第１図　喜子川遺跡の位置

遺構と遺物

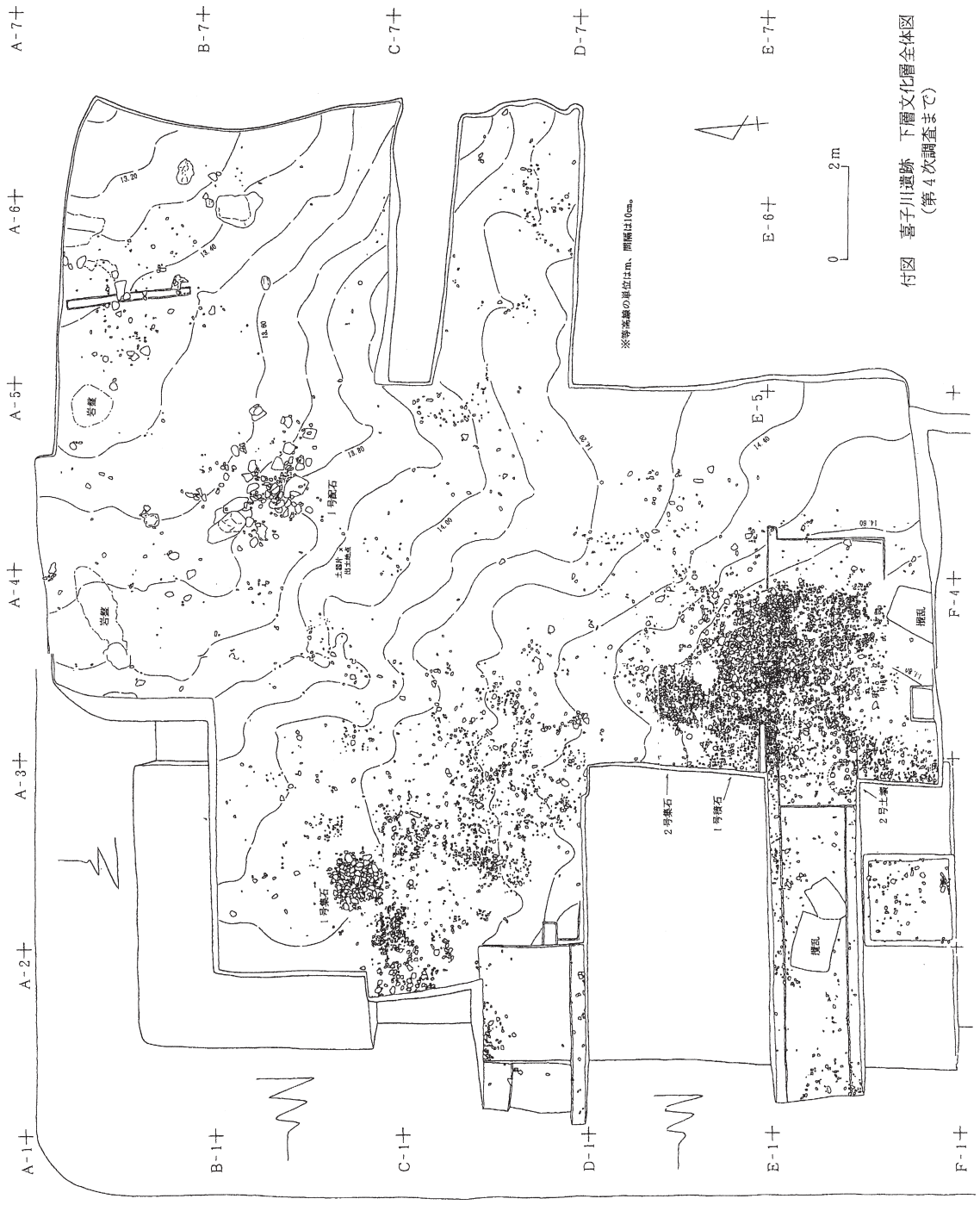
喜子川遺跡は第７次調査まで行われており，これまでに積み石，集石遺構，土構，配石遺構が確認されている。

１号積み石は第２次調査で発見され，その規模と広がりは年次的に調査された。積み石は拳大ぐらいの石から小粒の石が沢山詰まっており，炭化物も入っている。土器の出土はなく，チャートのチップなどが出土している。マージ層の直上にあり，アカホヤ火山灰層より下になる。この積み石がどのような遺構なのかまだ答えを出しきれていない。火山灰土層ではＡＴ火山灰層も検出されており，旧石器時代の可能性が大きくなった。

集石は１，２号集石が確認されている。１号集石は不整円形で，1.3m×1.4m程である。炭化物も検



第２図　グリッド配置図



第３図　下層文化層全体図

出されている。２号集石も第３次調査，第４次調査で出土した。１号集石とおなじように不整円形で直径約1.3mである。

爪形文土器はアカホヤ火山灰層の上からの出土である。

特徴

アカホヤ火山灰層と爪形文土器の関係は奄美だけの問題ではなく南島の爪形文土器と大和の爪形文土器研究にも一石を投じた。

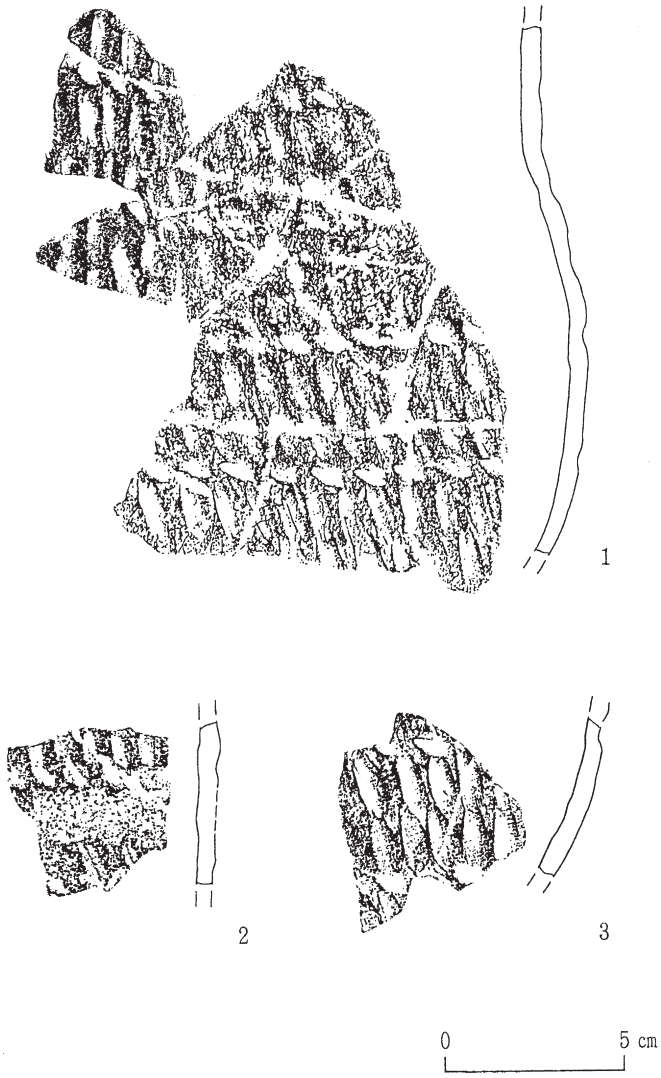
資料の所在

出土遺物は，笠利町歴史民俗資料館と青山学院大学に保管されている。

参考文献

喜子川遺跡調査団1988『喜子川遺跡』
喜子川遺跡調査団1989「第１次・第２次発掘調査」
喜子川遺跡調査団 1995「第３次・第４次発掘調査」

（中山清美）



第4図　爪形文土器